

## 第6学年 国語科学習指導案

児童 6年1組 男19名 女20名  
指導者 豊 川

浩 子

## 育てたい主となる能力（基礎・基本）

・登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

(読 ウ)

・書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが  
ら読  
むこと。

(読 エ)

- 1 単元名 表現を味わい，豊かに想像しよう  
教材名 やまなし 資料 イーハトーヴ`の夢

## 2 子どもと単元について

(1) 子どもたちは、「読むこと」の学習として「カレーライス」で、会話文や行動に着目しながら「ぼく」の心情の変化を読み取る学習を行った。このことにより、場面の構成について考えたり、登場人物の心情を叙述と関係付けて読み取ることができるようになってきている。また、「森へ」で、筆者の言葉や行動に着目したり、直喩や擬人化などの表現の工夫に着目したりしながら筆者の森（自然）に対する思いを読み取る学習を行った。このことにより、表現の工夫からも筆者の思いを読み取ることができるということを学び、文章全体を通して読みを重ねていくことによって、自分の読みを広げたり深めたりすることができるようになってきている。

読書としては、週に2回の朝読書に集中して取り組むなど、本好きな子が多く見られる。また、好きなジャンルの本だけでなく、学習した内容と関連した本にも興味を示し、進んで読もうとする子どもも増えてきている。

(2) 本単元「表現を味わい，豊かに想像しよう」は、叙述に即して情景を思い描きながら2つの世界を対比させて読みを深め、作者の思いを考えると、自分の考えを明確にしながら作者の生き方や考え方を読み、自分の考えをもつことをねらいとする。

本教材「やまなし」は、宮沢賢治の独特な表現が駆使された、象徴的で深い思想性をもつ作品である。それは、「二枚の青い幻灯」によって「五月」と「十二月」の対比する2つの世界で構成されている。対比させて読むことによって、「二枚の青い幻灯」それぞれの世界が際立たせられ、作者の思いを考えると考える。また、文章全体を通して、比喩・擬声語・擬態語・色彩語・造語などが巧みに用いられ、鮮やかに川底の様子を描写している。これらの表現に着目することにより、優れた叙述を味わい、言葉の感覚を豊かにすることができる。と考える。

それに続く 資料「イーハトーヴ`の夢」は、賢治の生き方や考え方、他の作品などを紹介した評伝である。広い知識と高い理想をもつ賢治の生き方や考え方に触れ、話し合いなどを通して考えを交流することにより、自分の考えを明確にしながらか読むことができると考える。さらに、他の作品への興味を深め、読書の世界を広げることができる。と考える。

(3) 本単元では、基礎・基本の定着を図るために、優れた叙述を味わいながら2つの世界を対比させて読むことと自分の考えを明確にしながらか作者の生き方や考え方を読むことという領域の特性を生かした言語活動を行う。

・比喩・擬声語・擬態語・色彩語などの表現に着目し、イメージと関係付けながらか読む。

(「深める」段階)

・「五月」と「十二月」の世界を対比させて読み、作者の思いを考えると。

(「確かめる

一」段階)

- ・ 作者の生き方や考え方に視点を当てて評伝を読み，自分の考えをもつ。  
(「確かめる 二」段階)
- ・ 賢治の他の作品について考えたことや読み比べて分かったことを交流する。  
(「広げる」段階)

単元の学習を進めるに当たっては、下記の5つの言語意識を明確する。

相手意識	学級の友達に
目的意識	宮沢賢治の作品について考えたことや読み比べて分かったことを伝え、作品の世界を味わうために
場面・状況意識	読書発表会を行う。
方法意識	優れた叙述を味わいながら2つの世界を対比させて読んだり、評伝や賢治の他の作品を読み自分の考えをもったりする。
評価意識	2つの世界を対比させて読みを深めることができたか、作者の生き方や考え方、作品に対する自分の考えをもつことができたか、自己評価・相互評価する。

### 《読書との関連》

本単元では、読書との関連を以下のように図っていく。

「やまなし」「イーハトーヴの夢」で、宮沢賢治の作品や生き方に親しんだことを生かして、宮沢賢治の他の作品の発展読書をしていく。その際、作品の世界を味わうために、宮沢賢治の作品について自分はどのように考えるか、常に意識しながら読むことができるようにする。

番号	作品名	番号	作品名
1	風の又三郎	9	気のいい火山弾
2	グスコブドリの伝記	10	よだかの星
3	セロ弾きのゴーシュ	11	水仙月の四月
4	北守将軍と三人兄弟の医者	12	からすの北斗七星
5	銀河鉄道の夜	13	どんぐりと山ねこ
6	注文の多い料理店	14	なめとこ山のくま
7	永訣の朝	15	虔十公園林
8	雪渡り	16	狼森と笹森、盗森

ここで身に付けた「優れた叙述を味わう能力」は、国語科・他教科・他領域の学習に生かすことができる。また、日常の読書活動などにおいて、イメージ豊かに読み、作品の世界を味わうことに生かすことができる。さらに、「自分の考えを明確にしながら読む能力」は、読書によって自分の考えを広げたり深めたりすることに生かすことができる。

### 3 学習指導目標及び評価規準

学 習 指 導 目 標	
国語への 関心・意欲・態度	進んで2つの世界を対比させて読んだり、作者の生き方や考え方を読み取ったりしようとする。
	叙述に即して、イメージと関係付けながら読むことができる。 (読 ウ) 自分の考えを明確にしながら作者の生き方や考え方を読み取ることがで

	読む能力	きる。 (読 工) 中心語句に気を付けながら，内容の中心を押さえることができる。 (読 才) 自分の考えを広げたり深めたりするために，同じ作者の他の作品を読むことができる。 (読 ア)

言語についての知識・理解・技能	<p>語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち，想像を広げながら読むことができる。 (言ウ(エ))</p> <p>必要な語句について，辞書を利用して調べることができる。 (言ウ(ウ))</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喻や擬態語・擬声語，色彩語などの使われ方や効果について考えながら，想像を広げて読んでいる。</li> <li>・ 難語句の意味を，辞書を利用して調べている。</li> </ul>
-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 学習指導計画及び評価規準

9時間(読 9)

過程	評価規準 評価方法		
	学習内容と主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
見通す	単元のねらいを押さえ，学習の見通しをもつこと ・ 本文を通読し，学習の見通しをもつ。 ・ 漢字と語句の練習をする。 1時	進んで初発の感想を書こうとしたり，学習の見通しをとらえようとしていたりしている。 発言・態度・自己評価	「やまなし」の初発の感想を書いたり，単元のねらいを押さえたりしながら，単元の学習の見通しをとらえている。 ノート
深める	文章全体のあらましをつかむこと ・ 「やまなし」の全体の構成を確認する。 ・ 2枚の幻灯に写し出されているものを確認する。 1時(30分)	進んで構成について考えようとしていたり，2枚の幻灯に写し出されているものを探そうとしていたりしている。 発言・態度・自己評価	「五月」と「十二月」の対比的な構成や，2枚の幻灯に写し出されているものを押さえている。 発言・ノート
深める	「五月」の世界を読み取ること ・ かわせみとかにの親子に着目し，想像を広げて読む。 ・ 「五月」がどんな世界か考える。 2時	かわせみやかにの親子に着目し，叙述と関係付けたり優れた表現を味わったりしながら，読み取ったことを書きまとめようとしている。 発言・態度・自己評価	「五月」の初発の感想を書いたり，単元のねらいを押さえたりしながら，単元の学習の見通しをとらえている。 ノート
深める	「十二月」の世界を読み取ること ・ やまなしとかにの親子に着目し，想像を広げて読む。 ・ 「十二月」がどんな世界か考える。 本時 3時	やまなしやかにの親子に着目し，叙述と関係付けたり優れた表現を味わったりしながら，読み取ったことを書きまとめようとしている。 発言・態度・	「五月」と「十二月」の対比的な構成や，2枚の幻灯に写し出されているものを押さえている。 発言・ノート

	自己評	
--	-----	--

深める	<p>2枚の幻灯に写し出されている川底の様子を読み取ること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喻表現されている箇所を見付ける。</li> <li>・ 比喻の仕方から，川底の様子を想像して学び合う。</li> </ul> <p>4時(60分)</p>	<p>進んで比喻表現されている箇所を見付け，川底の様子を想像しようとしている。</p> <p>発言・態度・自己評価</p>	<p>比喻表現されている箇所を見付けたり，比喻の仕方から川底の様子を想像したりして，「五月」と「十二月」の世界を対比的に読み取り，</p> <p>発言したり書きまとめたりしている。</p> <p>発言・ノート</p>	<p>比喻や擬態語・擬声語，色彩語などの使われ方や効果について考えながら，想像を広げて読んでいる。</p> <p>ノート</p>
確かめる一	<p>作品に込められた作者の思いを考えること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五月」と「十二月」の世界の要素を対比する。</li> <li>・ 作品に込められた作者の思いを書きまとめる。</li> </ul> <p>1時</p>	<p>進んで対比的な表現を見付け，作品に込められた作者の思いを書きまとめようとしている。</p> <p>発言・態度・自己評価</p>	<p>対比的な表現を見付けて発言したり，対比の仕方から作品に込められた作者の思いを書きまとめたりしている。</p> <p>発言・ノート</p>	<p>対比的な表現のよさについて感じたことを書きまとめている。</p> <p>ノート</p>
確かめる二	<p>作者の生き方や考え方を読み取ること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「イーハトーヴの夢」を読み，宮沢賢治の生き方や考え方について読み取る。</li> <li>・ 賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを書きまとめる。</li> <li>・ 宮沢賢治の他の作品を知る。</li> </ul> <p>1時(60分)</p>	<p>進んで宮沢賢治の生き方や考え方を読み取ったり，自分の考えを書きまとめたりしようとしている。</p> <p>発言・態度・自己評価</p>	<p>宮沢賢治の評伝から，賢治の生き方や考え方を読み取り，それに対する自分の考えを書きまとめている。</p> <p>ノート</p>	<p>難語句の意味を，辞書を利用して調べている。</p> <p>ノート</p>
広げる	<p>作品を読み比べて分かったことをまとめること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展読書を振り返り，作品について考えたことや読み比べて分かったことを書きまとめる。</li> </ul> <p>1時(30分)</p>	<p>発展読書を振り返り，作品について考えたことや読み比べて分かったことを書きまとめようとしている。</p> <p>態度・自己評価</p>	<p>発展読書を振り返り，作品について考えたことや読み比べて分かったことを書きまとめている。</p> <p>ノート</p>	<p>比喻や擬態語・擬声語，色彩語などの使われ方や効果について考えながら，想像を広げて読んでいる。</p> <p>ノート</p>
広げる	<p>作品を読み比べて分かったことを交流すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品について考えたことや読み比べて分かったことを交流する。</li> </ul>	<p>作品について考えたことや作品を読み比べて分かったことを，進んで友達に紹介しようとしている。</p>	<p>作品について考えたことや作品を読み比べて分かったことを交流し，感想をもっている。</p>	<p>比喻や擬態語・擬声語，色彩語などの使われ方や効果について考えながら，想像を広げて</p>

	2時 価	発言・態度・ 自己評	発表・ノート	読んでいる。 発表・ノート
--	---------	---------------	--------	------------------

5 本時の指導

(1) ねらい

やまなしやかにの親子に着目し、叙述と関係付けたり優れた表現を味わったりしながら、読み取ったことを書きまとめようとする。

やまなしやかにの親子に着目し、叙述と関係付けながら「十二月」の明るく平和な世界を読み取り、書きまとめることができる。

(2) 展開

前時までの学習					学習内容 ・「五月」の世界を読み取ること 言語活動 かわせみやかには
	過程		形態		
	学習内容・学習活動	1	全	・支援 「主発問」 評価 評価方法	
課題をつかむ		前時の学習を想起すること	全		
		(1分)			
		2			
		本時の			



の親子は着目しながら、想像を広げて読む。「五月」がどんな世界か考える。支援・着目する点を提

学習課題を把握  
すること

(4分)

3

全

学習場面を音読するこ  
と

個

全

(5分)

4

学習課題を解決するこ

「十二月」の世界を読み取る

示し、焦点化して一人学びや学び合いができるようにする。・前時では、「五月」の出来事を読み取り、どんな世界

と  
(1) 「十二月の世界について一人学びをする。

(8分)

(2) 一人学びしたことを基に学び

かを——考えたことを想起することです。本時の学習への意欲を高め——るようにはする。——。——。本時では「——やまなしの

合う。

(1  
7  
分)

---

---

描写」と「        」        かほの親子の会話・        行動」という2点は着目し、叙述と関係付けたり優れた表        現を味わったりし

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

ながら想像を広げて読み、「十二月」の世界を読み取っていくことを確認し、学習の見通しをもつことができ

---

---

---

---

るようにする。本時の学習課題と解決の見通しをとらえ、意欲をもって取り組もうとしているか。

---

---

---

---

発言・態度  
音読する子どもを意図的に指名し、「十二月」の世界を想像しながら読むことができる

よじらする。 「・やまなしの様子とかはの親子の会話や行動から、分かつたことや考えたことを書きま

---

---

---

---



しゅう。・特に、「十二月」の世界を表している部分に着目して書き 抜いたり書き込みをしたりすることを確

---

---

---

---

認し、課題は迫る。—— ことが出来るようにする。 「やまなしの様子やかはの様子について話し合い、十一月

——

——



「ばかばか」「月光のはじがもかもか」  
などのやまなしの描写は着目し、やまなしがゆっくりとし  
た速度で

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

動いていることや明るく美しい様子であることを読み取ることができるようにはする。「後を追いました」「お

---

---

---

---

いしそうだね」のかはの会話や行

動は着目し、やまなしの出現を言んでいる安らぎは満ちた

秀圃気を読み

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

取ることかであるようにする。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

「やまなしが、かほの兄弟は与えたものとは何でしょう。」「具体的な発問を行うことにより、「十二月」の

個

(3) 学び合ったことを生かして、読み取ったことを書きまとめる。(3分)

全

「十二月」の世界を読み取る



明るく平和な世界のイメージをもつことができるようにする。・「十一月」はどんな世界か、一人学びでの自

全  
個  
全

(4) 書きまとめたことを発表する。(2分) 5 学習のまとめをするこ

まとめる

分の読み取り や、学び合いで得た新たな考えを基に書きまとめればよい ことを確認し、活動を促すようにす

と (1)優れた表現を味わいな がら音読する。(3分) (2)自己評価をする。(

---

---

る。「書きまとめたことを発表しましょう。」「十一月」の世界をより明確に表現している子どもを指名し

1分) 6 次時の学習について見 通しをもつこと (1分)

次時の学習

・友達の考えのよさを気付くことができるようにする。 ・指名読や一斉読を通して聞いたり声を出して読んだりす

---

---

る。ことはより、優れた文章表現を読み味わうことができるよ。うにする。・本時の学習内容や学習方法、自分

---

---

の学びの成果を振り返り、満足感・成就感をもつことができるようにする。やまなしやかはの親子は着目し

---

---

・叙述と関係付けたり優れ　　な表現を味わったりしながら、読み取ったことを書きま　　めようとしたか。

---

---

発言・態度・自己評価

やまなしやかはの親子に着目し、叙述と関係付けながら

「十二月」の明



るく平和な世界を読み取り、書きまとめる ことができたか。

ノート 学習内容 ・ 2枚の幻灯は写し出されている川底の様子を読み取ること 言語活動 比喩表現されて

いる箇所を見付ける。―― 比喩の仕方から、川底の様子を想像して学び合う。―― 支 援

・「五月」と「十二

月」の川底の様子を比へることはより、川底の様子も対比的に描かれて  
ている部分があり、それぞれの世界を表現



しつじょうとがとらえられるようにする。